

## 通 信

\*\*\*\*\*  
沖縄の自然を守り、次世代に伝える使命沖縄生物学会会長 傳田哲郎  
\*\*\*\*\*

伊澤雅子前会長の後を受け、沖縄生物学会の会長をお引き受けいたしました。

1996年に琉球大学に赴任して以来、私は学会の活動に関わってまいりました。会長という重責を担うには力不足ではありますが、先輩方が築いてきた学会の歴史と意義を心に刻み、微力ながら尽力したいと考えております。

私の本学会に対する想いを強くしてくれたのは、故・池原貞雄先生が1964年に沖縄生物学会誌の創刊号で述べられた「沖縄の生物は沖縄に定住している私たちでなければ研究できない多くの部門が残されていると思う。協力して郷土の生物を調べていこう。そして、細大もらさずこの機関誌に記録して残そう」という言葉です。同じ言葉を、当時ご存命だった池原先生から直接伺ったこともあります。この言葉には、沖縄生物学会の存在意義と、沖縄の自然に対する研究者としての強い責任感が込められており、深い感銘を受けたことを今も覚えています。

時代は移り変わり、池原先生の言葉から60年の時を経て、私たちを取り巻く社会や自然環境は大きく変化しました。観光産業の発展や外来種の侵入、気候変動の影響など、沖縄の生態系が直面する課題は年々複雑化しています。こうした状況の中で沖縄生物学会が果たすべき役割も変化してきましたが、池原先生が述べられた「沖縄の自然を細大もらさず記録し、社会に発信する」という使命は、今も変わらず私たちの重要な指針として生き続けていると感じます。

沖縄生物学会の大きな使命のひとつは、沖縄の豊かな生物多様性と独自の生態系を記録し、その価値を社会に広く伝えることです。琉球諸島は生物多様性のホットスポットとして世界的にも注目されており、私たちが調査・研究し、次の世代に継承する意義はますます大きくなっています。また、本学会の活動を通じて、沖縄の自然とその保全の重要性を地域社会と共有し、理解を深めていくことも重要です。

近年、私たちのフィールドである琉球諸島の自然環境は人間活動の影響を強く受け、大きく変化しています。このような中で、会員が自然とどのように向き合い、次世代に健全な生態系を引き継ぐかがますます重要になっています。特に若い会員の皆さんの柔軟な発想や革新的な視点に期待しています。新たな知見や技術を取り入れ、未来の沖縄生物学会をともに築いていきましょう。

今後、沖縄生物学会が沖縄の生物学の発展にどのように寄与できるのかを、会員の皆様と共に考え、行動していきたいと思っております。先輩方が築いてこられた伝統を引き継ぎながら、新たな課題に向き合い、沖縄生物学会の未来を次世代に向けて拓いてまいりたいと存じます。どうか皆様のご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会 第62回大会のお知らせ

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会の第62回大会を下記の要領で開催いたします。会場は沖縄大学です。一般講演（口頭発表・ポスター発表）、池原記念賞受賞講演、公開シンポジウム、懇親会を予定しています。小・中・高校生による大会参加ならびにポスター発表に関して、参加費は免除としますので、ふるってご参加ください（ただし、口頭発表は学生料金）。なお、小・中・高校生の引率者についても参加費は免除になります。その他、詳細な情報については、学会ホームページおよび次号「通信」などでお知らせする予定です。

第62回大会：沖縄大学本キャンパス 本館

(<https://www.okinawa-u.ac.jp/campuslife/facility/access/>)

日程：2025年5月17日（土）

大会参加費：1,500円（学生：1,000円、小・中・高校生免除）



### ◆ 発表申し込み

沖縄生物学会大会で発表を希望される方は、口頭発表、ポスター発表の別を明記のうえ、**講演要旨を以下の要領でまとめ、2025年4月4日（金）（必着）までに**、原則として、電子メール(okibio62th@gmail.com)にてお送り下さい。その際、1つのメールで複数の発表を申し込まないようにしてください。また、同一研究室からの口頭発表の申し込みは原則として1題とし、残りはポスター発表としてください。申し込み件数によって発表形式の変更をお願いする場合があります。お申し込みの受付後、大会準備委員会から受領確認メールを送信しますので、必ずご確認下さいようお願いいたします。

大会での発表は、小・中・高校生によるポスター発表を除き、**発表者もしくは共同発表者に少なくとも一人の会員が含まれていることを条件とします。**会員の皆様の日頃の研究成果を発表する場として積極的にご参加ください。口頭発表はパワーポイント（pptx もしくは ppt ファイル）によるデジタルプロジェクター（HDMI もしくは VGA 接続）使用での発表とします。大会準備委員会で OS が Windows10 か Mac OSX のノートパソコンを準備いたしますが、ソフト等の不適合が起こることが懸念されますので、可能な限り、ご自身のパソコンをご持参下さい。それ以外の設備を必要とする方は、予めお問い合わせ下さい。口頭発表の講演時間は、質疑を含め15分（講演12分、質疑3分）です。ポスターは172.0cm（縦）×82.0cm（横）に収まるようにしてください。

### ◆ 講演要旨の作成要領と提出方法

講演要旨原稿ファイルは以下の要領で作成し、**PDF形式に変換したファイルのみを受け付けることと致します。**要旨ファイル提出の際には、ファイル名を「**発表申込（発表者氏名）**」として下さい。フォントは MS 明朝体 11 ポイントとし、英文の場合は Times New Roman とします。その他、句読点等の書式は **沖縄生物学会誌投稿規定 (<http://www.okibio.jp/publish/02.html>)** をご参照ください。演題、発表者、本文を含めて **800文字以内**とします。図表は要旨の中には入れないで下さい。要旨作成例を下記に記載しており

ますので、必ずご確認下さい。なお、沖縄生物学会誌への講演要旨の掲載を行わないことをあらかじめご承知おきください。

**講演要旨提出の締め切り：2025年4月4日(金)17:00**

締め切り後の講演要旨の受付は一切いたしません。また、要旨の体裁を含む修正・差し替え等についても対応いたしかねます。事前に要旨 PDF ファイルをご自身で十分ご確認の上、提出するようにしてください。締め切り厳守にてお願いいたします。

◆ 要旨作成例

タイトル (太字)、発表者、所属は MS ゴシック 11 pt

**潮下帯砂泥底に生息する穴居性甲殻類**

○成瀬貫 (琉球大・熱生研・西表)・吉田隆太 (お茶ノ水大・湾岸生物教育セ)

所属は短縮

潮下帯の砂泥からなる海底には、無数の穴が散在していることがよくある。これらの穴は様々な生物の活動により形成されている場合がほとんどと考えられる。しかしそれらの穴の

発表者に○

本文は MS 明朝 11 pt、段落は複数可。句読点は、. を使用。

◆ 懇親会申込

発表の有無に関わらず、懇親会に参加される方は2025年4月4日(金)までに準備委員会宛 (okibio62th@gmail.com) にメールでお申し込み下さい。お申し込みの際のメールの件名には「懇親会申込」とご記入ください。懇親会は、沖縄大学近辺 (徒歩 10~15 分) の居酒屋を予定しております。懇親会への参加申し込みは大会当日にも受け付けますが、その場合、参加費は当日料金となりますのでご注意ください。懇親会費は、事前申し込み 3,500 円、当日申し込み 4,000 円 (学生は両方 2,500 円) 程度の予定です。(当日申込は全体の申込人数により承れない可能性もあります。是非、事前申し込みをお願いいたします。)

<問合せ先>

沖縄生物学会第 62 回大会準備委員会

E-mail: okibio62th@gmail.com

沖縄大学経法商学部・城ヶ原貴通

\*\*\*\*\*

## 国立自然史博物館誘致の現状報告

\*\*\*\*\*

国立沖縄自然史博物館誘致活動は沖縄県主体で今年度も活発に行われています。国立自然史博物館誘致シンポジウム(以下参照)は毎年一回行われていますが、今年度のシンポジウムは例年とは少し趣を変え、中学生や高校生に司会進行を努めてもらうとともに、彼らの研究発表も同時に行いました。その甲斐があつてか、会場には多くの子どもたちが集まっていました。国立沖縄自然史博物館誘致活動の課題は、一般の方々に活動内容を知っていただくことです。今回の取り組みはそのヒントが得られた有意義なものでした。2032年度の「国立沖縄自然史博物館」開館めざし、様々な誘致活動が県内外で行われていますが、会員の皆様におかれましてもイベントに是非参加していただけますようお願いいたします。

### 令和6年度沖縄シンポジウム

1. 自然史の大博士大集合！ 博士が語る凄い生き物たち(終了)
  - ① 会場: 沖縄市民会館大ホール
  - ② 日時: 2024年11月10日(日) 13:30~16:00
  - ③ 内容: 基調講演、研究発表



### 令和6年度国立自然史博物館誘致企画展

1. 常設展示展
  - ① 会場: 沖縄美ら海水族館イベントホール(2024年6月21日~2025年3月21日予定)
  - ② 内容: パネル展示、オブジェ、動画
2. 常設展示展
  - ① 会場: 沖縄県立博物館・美術館 企画展示コーナー(2024年6月21日~2025年3月21日予定)
  - ② 内容: パネル展示、オブジェ、動画
3. 本島北部展(終了)
  - ① 会場: 名護博物館ギャラリー2・3(2024年8月13日~8月28日)
  - ② 内容: パネル展示、オブジェ、恐竜頭骨、名護博物館所蔵品
4. 本島南部展(終了)
  - ① 会場: 沖縄の産業まつり(2024年10月25日~10月27日)
  - ② 内容: パネル展示、オブジェ
5. 本島中部展(終了)
  - ① 会場: 沖縄市役所ロビー(2024年11月1日~2024年11月7日、11月11日~14日)、沖縄市立郷土博物館ロビー(2024年11月8日~10日)
  - ② 内容: パネル展示、オブジェ、恐竜頭骨、郷土博物館所蔵品
6. 八重山展(終了)
  - ① 会場: 八重山の産業まつり(2024年10月5日~10月6日)、
  - ② 内容: パネル展示、恐竜頭骨
7. 宮古展(終了)
  - ① 会場: 宮古の産業まつり(2024年11月23日~11月24日)
  - ② 内容: パネル展示、恐竜頭骨



宮古展

### メディア

1. 県政広報テレビ番組「うまんちゅひろば」: 「日本発の国立自然史博物館を沖縄に！」(2024年8月24日・25日)



## 沖縄生物学会第 61 回大会・総会報告

沖縄生物学会第 61 回大会が、2024 年 5 月 25–26 日（土、日）に琉球大学西原キャンパスで開催されました。今回は日本生態学会九州地区会、日本動物学会九州支部会、九州沖縄植物学会との合同大会であったため、2 日間にわたる開催でした。初日は一般のポスター発表が 36 題、高校生によるポスター発表が 6 題ありました。また、16:20 からは「沖縄島の固有鳥類の現在と未来に向けて」と題した公開シンポジウムがあり、森林総合研究所の関伸一氏によるホントウアカヒゲの分類や進化に関する話題提供、同研究所の小高信彦氏によるノグチゲラの生態に関する話題提供がなされました。その後、「不思議な固有鳥類が暮らす森を未来に遺すには？」とのテーマを掲げ、総合討論がなされました。そこでは、ユニークな生態と進化史をもつ鳥類を育んだやんばるの森の大切さや、やんばる以外の沖縄の自然の大切さ、その保全に向けて何ができるのかといったことについて、会場を交えて活発な意見交換がなされました。その後、琉球大学生協の北食堂で情報交換会が持たれ、四学会合同大会ならではの顔合わせもあるなかで参加者らは親睦を深めました。

2 日目には 4 つの会場で口頭発表がなされ、沖縄生物学会のセッションでは 26 題、その他のものも合わせると 52 題の発表がありました。12:30 からは本学会の第 61 回総会があり、伊澤雅子会長の挨拶のあと、環境省石垣自然保護官事務所の山本以智人氏と琉球大学理学部の菊池隼人氏が議長団に選出され、議事が進行されました。まず、戸田守代表幹事より 2023 年度事業として、通信 2 通と会誌の発行、第 61 回大会の開催が報告されました。また、次年度の大会は沖縄大学で開催予定であることが示され、同大学の城ヶ原貴通氏より挨拶と、参加の呼びかけがありました。続いて、城ヶ原貴通編集幹事から沖縄生物学会誌 62 号の発行、池原貞雄記念賞選考委員長の佐々木健志氏より、第 15 回池原貞雄記念賞の授賞者決定の報告がありました。同賞は環境保護部門として久高将和氏が受賞され、選考理由として、やんばる地区の調査活動への協力、トラスト運動の普及をはじめとした自然環境・野生生物保全への貢献、地域の環境教育や人材の育成、エコツーリズムの推進、カメラマンとしての自然保護に関する啓発などの功績が紹介されました。続いて、竹村明洋自然史博物館設立要請委員長より、国立沖縄自然史博物館設立に向けた最近の動きについて説明がありました。

総会の審議事項では、戸田幹事から、年次大会の開催、会誌 1 号と通信 2 通の発行を 2024 年度事業計画とすることが提案され、承認されました。続いて、傳田哲郎会計幹事から 2023 年度決算報告、比嘉俊監査員から同監査報告があり、再び傳田幹事から 2024 年度予算案が提示され、繰越金や出版事業会計の扱いに関する質疑を経て承認されました。その後、戸田幹事により、繰越金の使途に関してワーキンググループで検討されている内容が示され、会場からも意見が出されました。また、近年運用がない出版会計を廃止し、一般会計に統合することが提案され、質疑ののち承認されました。さらに役員の改選に関して評議員会からの案が示され、承認されました（新役員は本通信 9 ページに掲載）。また、南城市によって計画されている市道建設が希少種の重要な生息地に深刻な影響を与えかねないとして、本学会から、計画の実施にあたっては自然環境に十分な配慮がなされるよう、同市に対して要望書を提出することを決議しました。さらに会場から、沖縄の自然環境の保全の重要性をさらに深く認識するため、本学会会員が協力して野生生物の過去の記録を掘り起こし、若い世代に伝える方を練っていかうとの提案があり、幹事会が預かって審議していくことになりました。最後に佐々木健志副会長から閉会の辞があり、総会は終了しました。

13:30 からは第 15 回池原貞雄記念賞の授賞式があり、久高将和氏に賞状と盾が手渡されました。続いて久高氏による受賞記念講演があり、久高氏ならではの素敵な写真を多数上映しながら、やんばるの自然・生きものの素晴らしさがあらためて紹介されるとともに、その保全のために努力が必要であることが呼びかけられました。

\*\*\*\*\*

## 第16回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞候補者の募集

\*\*\*\*\*

本賞は、沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるもので、下記の三部門が設けられています。研究者だけでなく、県内で広く教育活動や環境保護活動などを行っている個人や団体なども表彰対象となっています。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。

### <各部門の概要>

表彰の対象は、次の各部門に該当する個人または団体とし、原則として、個人の場合は学会会員(授賞式の時点で会員歴が1年以上)であること、団体の場合は会員3名以上が推薦する団体であることとする。

#### (1) 研究奨励部門

沖縄の自然もしくはその保護に関し顕著な貢献が期待される研究を行った個人(沖縄の生物に関する論文、講演などの実績がある・若手研究者を優先とする)。

#### (2) 教育功労部門

長年にわたり沖縄の自然もしくはその保護に関する教育実践、普及等に従事し、顕著な功績のあった個人または団体(沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績がある)。

#### (3) 環境保護部門

長年にわたり沖縄の自然環境保護に関する活動を継続し、顕著な功績のあった個人または団体(沖縄の自然環境の保全に関する書籍、事業、イベントなどの活動実績がある)。

### <池原貞雄記念賞歴代受賞者>

第15回(2024年)環境保護部門 久高 将和  
やんばるの森あらたなステージへ「私たちが守り継いでいくもの」

第13回(2022年)研究奨励部門 水谷晃 (Island Ecosystem Research)  
「人の暮らしと生物の応答: 海鳥、カンムリワシ、海草とアオウミガメを例に」

第11回(2020年)教育功労部門: 安座間安史  
「沖縄の自然、環境教育に対する長年の貢献」  
環境保護部門: 公益財団法人 沖縄こどもの国  
「沖縄の在来生物保護を目指した飼育下研究と普及啓発」

第9回(2018年)環境保護部門 NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄  
「沖縄の希少動物と生態系保全を目指した獣医学的活動」

第6回(2015年)研究奨励部門 中西 希(琉球大学理学部)  
「イリオモテヤマネコの長期生態研究」  
教育功労部門 沖縄生物教育研究会  
「会員相互の研鑽、理科教育の発展、書籍の発刊等の長期活動」

第4回(2013年)中村 剛(台湾中央研究院生物多様性センター)  
「琉球、台湾、フィリピンの植物地理」

第3回(2012年)藤田喜久(琉大・大学教育センター/NPO 法人海の自然史研究所)  
「沖縄での生物多様性研究と研究成果の地域への還元」  
小倉 剛(琉球大学農学部)  
「沖縄島におけるマングースの効果的防除対策に関する基礎研究」

第2回(2011年)小高信彦(森林総研・九州支所)  
「ノグチゲラと暮らせる森づくりに向けて」

第1回(2010年)佐々木健志(琉球大学資料館)  
「沖縄の絶滅に瀕した昆虫類の現状と同じく絶滅に瀕した蕨算について」



\*\*\*\*\*

## 第16回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞候補者の募集（続き）

\*\*\*\*\*

第16回沖縄生物学会池原貞雄記念賞の候補者を募集します。規約にあるとおり、本賞は沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるものです。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。参考までに、池原貞雄記念賞表彰規約は学会HPを確認ください。

受賞者の決定は選考委員会で行われ、沖縄生物学会大会開催時に授賞式を行います。

### 池原貞雄記念賞候補者推薦要領

#### 1 推薦方法

別紙様式の表彰候補者推薦書（様式1）、推薦理由書（様式2）、履歴書（様式3、個人推薦の場合のみ）、団体の概要（様式4、団体推薦の場合のみ）各2部を添えて、沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局あて郵送にて提出する。もしくは、下記のメールアドレスに各様式を添付ファイルとして送信する（件名には必ず「池原貞雄記念賞推薦」と記入する）。

#### 2 推薦人員

(1)各会員が推薦できる人数は、一部門の1名または1団体とする。

#### 3 候補者の例示

(1) 表彰規約3の2の(1)は若手研究者を優先とする。

(2) 表彰規約3の2の(1)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。

ア) 沖縄の生物に関する論文、講演などの実績があるもの。

(3) 表彰規約3の2の(2)でいう長年とはおおむね10年以上とする。

(4) 表彰規約3の2の(2)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。

ア) 沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績があるもの。

(5) 表彰規約3の2の(3)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。

ア) 沖縄の自然環境の保全に関する活動実績(書籍、事業、イベントなど)があるもの。

#### 4 候補の対象としない者

(1) 過去に当記念賞を受賞した者。

#### 5 応募方法

(1) 沖縄生物学会通信および学会ウェブサイトにて公募する。様式はウェブサイトからダウンロードできる。

(2) 表彰規約3の2の(1)でいう研究部門については、代表的な論文5編以内（コピー可）を添付すること。

(3) 応募締切は2025年1月末日（当日消印有効）とする。

(4) 応募書類の送付先

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科内

沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局 宛、E-mail: [okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp](mailto:okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp)

#### 6 留意事項

受賞者には自らの研究または活動の概要を受賞講演として沖縄生物学会大会で紹介していただきます。

#### 問い合わせ：

本件につきましては、学会事務局へメール（[okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp](mailto:okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp)）にてお願いします。

\*\*\*\*\*  
**令和6年度 沖縄生物学会 第1回評議員会報告**  
\*\*\*\*\*

沖縄生物学会評議員会が2024年12月2日（月）の18:45から開催されました。琉球大学理学部528室を会場としつつ、メンバーの一部がオンラインで参加するハイブリッド方式の評議員会となり、18名出席（幹事含む）、4名委任、1名欠席でした。2024年度より会長を含む評議員や幹事の交代があったため、自己紹介を実施後、評議員会を始めました。

**【審議事項】**

**1. 沖縄生物学会第62回大会の開催について**

2025年度の年次大会である第62回大会の運営体制について議論がなされました。第62回大会は2025年5月17日に沖縄大学でおこなうこと、大会参加費、懇親会参加費、申込期日、公開シンポジウムのテーマについて承認されました。また次大会は、小中高校生の大会参加者の生徒（ポスター発表および発表無し）及び引率者の大会参加費が免除になることが議論の上決定されました。第62回大会については本通信2-3ページをご覧ください。

**2. 第16回池原貞雄記念賞の募集について**

第16回池原貞雄記念賞の募集について、通信と学会ホームページで情報発信し、2025年1月末日を締め切りとするという提案がなされ、承認されました。また、選考委員については会長を中心に現在調整中であることが報告されました。池原貞雄記念賞が被推薦者なしで終わることもあるため、評議員やその周囲で積極的に推薦を働きかけていくことが確認されました。関連記事は6-7ページをご覧ください。

**3. 再来年2026年の年次大会（第63回大会）のホストについて**

2026年の大会は、琉球大学で実施することが承認されました。2027年は、沖縄キリスト教学院大学での開催を検討することになりました。

**4. 通信115号（本通信）の内容について**

通信115号の内容について審議し、その項目立てと主な内容が承認されました。

**【報告事項】**

**1. 国立自然史博物館設立への動き（進捗報告）**

竹村自然史博設立要請委員長より、2024年11月10日、令和6年度沖縄シンポジウムが沖縄市で開催され、一般親子の参加が多く大変盛況であったことが報告されました。これまで、経済界、政財界を対象としたシンポジウム開催が主であったが、今後は一般市民を対象とした働きかけを進めていく予定とのことでした。ほかにも各地で博物館誘致のための企画展が開催されており、美ら海水族館と県立博物館・美術館では2025年3月まで開催されること、北部、南部、中部、八重山、宮古での展示は無事終了したことが報告されました。関連記事は本通信4ページをご覧ください。

**2. 会誌の編集状況**

編集幹事より、次号の会誌について、受理済みが計6編（原著論文1編、短報1編、資料4編）、査読・改訂中が計5編（原著論文4編、資料1編）あることが報告されました。

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会 役員一覧表

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2024年12月時点)。任期は2年間で、2026年5月の総会までです。

会長	傳田 哲郎(琉球大学)	
副会長	佐々木 健志(琉球大学)	桃原 健次(沖縄生物教育研究会)
監査員	菊川 章(沖縄県立博物館・美術館) 比嘉 俊(琉球大学) 今井 秀行(琉球大学)	
評議員		
大学関係	坂下 光洋(名桜大学)	照屋 建太(沖縄キリスト教学院大学)
研究機関	宮本 真琴((一財)沖縄県環境科学センター) 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館) 青柳 克((株)イーエーシー)	
行政機関	新城 憲一(沖縄県教育庁文化財課)	山本 以智人(環境省)
高校関係	島袋 陽(沖縄県立総合教育センター)	知念 美香(小禄高校)
中学校関係	平良 正哉(佐敷中学校)	
その他	当山 昌直	

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 佐々木 健志(琉球大学)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事	山川(矢敷) 彩子(代表幹事: 沖縄国際大学)		
	戸田 守(琉球大学)	竹村 明洋(琉球大学)	
	城ヶ原 貴通(沖縄大学)	平良 涉(琉球大学)	齊藤 由紀子(琉球大学)
会計幹事	小林 峻(琉球大学)		
編集幹事	藤田 喜久(沖縄県立芸術大学)	江藤 毅(琉球大学)	
編集委員	佐々木 健志(琉球大学)	富永 篤(琉球大学)	
	前田 健(沖縄科学技術大学院大学)	渡邊 謙太(沖縄工専)	

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

\*\*\*\*\*

## 沖縄県生物学会賛助会員

\*\*\*\*\*

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行  
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石正明  
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀  
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

\*\*\*\*\*

## 原稿募集のお知らせ

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿を準備いただき(原則として電子ファイルでの投稿のみ受け付けます)、投稿専用アドレス(journal@okibio.jp)までお送りください。

沖縄生物学会誌は、毎年1号、毎年3月末に発行される予定となっています。したがって、毎年12月末までに受理された原稿について、翌年3月に発行される号に掲載することになっております(受理原稿の編集・校正・印刷業者との調整など、発刊に向けた諸作業の時間が必要なためです)。沖縄生物学会誌に投稿された論文原稿の審査(査読)は、通常2ヶ月~3ヶ月程度要します(査読結果次第では半年~1年以上かかる場合もあります)。これらの発行スケジュールをご理解の上、十分な時間的余裕を持って、ご投稿をお願い致します。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久(journal@okibio.jp)までお寄せ下さい。

原稿送付先 : journal@okibio.jp (沖縄生物学会誌 編集幹事)

## 沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地  
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内  
生物系事務室 TEL : (098) 895-8577  
FAX : (098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp  
振替口座 (郵便) : 02030-8-30433 沖縄生物学会